

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年3月31日

学校法人ゆうあい学園 ゆうあい幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・健全な心身の基礎を培う
- ・自立と協同の態度及び道徳性の芽生えを培う
- ・豊かな心情や思考力の芽生えを培う
- ・喜んで話したり、聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養う
- ・豊かな感性を育て、創造性を豊かにする

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・幼児の姿を多面的に捉え、幼児の育ちを理解する

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	幼稚園教育要領について理解を深める。	B	月反省の際に要録のどこにあたるのか考えながら話し合う。
2	組織の一員としての自覚を持ち、幼児のことについて保育者同士で話し合いを深める。	B	職員全員が組織の一員であることを自覚し、話し合いの際は積極的に自分の考えを発信したり、相手の意見に耳を傾け、共通理解を深め、保育の質の向上につなげる。
3	幼児の成長を記録し、その姿を職員間で共有していく。	B	学年で1週間に1回、HPのブログを更新し、幼児の成長や保育の振り返り、話し合うことで幼児の育ちについて理解を深める。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	学期ごとに評価項目の取り組み状況を確認することで、重点目標に取り組む職員の意識の向上につながった。毎月の反省では子どもたちの成長と教育要領のつながりを意識することが前より増えた。話し合いの場面では自らの意見を発信しながらも相手の意見を尊重し、お互いの考えを伝え合うことが増えてきており、職員全体の組織の一員としての自覚が一層強くなった。ICT導入の一つとしてタブレット端末を各クラスで使用を始めたことで、写真や動画を見ることで保育活動の振り返りや子どもたちの様子の話をしやすくなった。様々な場面で職員の意識が変わり、子どもの育ちに気付き、その事を職員同士で共有することが習慣化してきたため、今後も幼児の育ちを語り合う機会を具体的に持つなど意識して取り組み、園全体で幼児理解を深められるようにしていきたい。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	環境構成	幼児が主体的にかかわり、自ら活動を展開していくような環境を構成していくように月反省の際に遊びの環境構成について話し合う。
2	地域との連携	コロナ禍で中断していた地域とのかかわりを少しずつ取り入れる。社会見学や小学校見学、老人ホームの訪問などの活動を中心に取り組んでいく。
3	情報の発信	保護者には子どもの様子をわかりやすく伝えられるよう心掛け、日常的な様子を伝える工夫（写真や動画など）を検討する。また、様子だけでなく、保育の意図や園としての保育のねらいなどもクラス懇談など機会を捉えて伝えていく。

6.学校関係者評価委員会の評価

子どもが楽しく過ごせるよう計画して保育が進められていたことが理解できた。園外保育は中止になることが多い為、可能な場合は延期出来るよう検討して欲しい。のびのびと園生活を楽しんでいて、友達との関わりの中で色々なことを経験して、気持ちの伝え方を身に付けたり、関わりが深まっていると感じたが、もう少しクラスの様子など園での子どもの姿が見えるようになるといい。保護者が参加出来て、親子で楽しめる活動や地域の老人ホーム訪問などの活動も増えて行ってほしい。